

愛知大学における Moodle4.1 へのアップグレードプロセス概要

森野 誠之 (Moodle サポート担当)

要旨

愛知大学（以下、本学）で 2009 年度から導入している Moodle¹⁾ はオープンソースソフトウェア (OSS) であるために、開発元ではセキュリティ面と機能面のバージョンアップが頻繁に行われる。2024 年度より Moodle3.9 から Moodle4.1 アップグレードする予定であり、ユーザーインターフェース (UI) と機能に変更がある。スムーズにアップグレードするために作業プロセスを報告する。

キーワード：Moodle, Moodle4.1, アップグレード

1. はじめに

本学で運用している Moodle の UI は、これまで利用者の混乱を防ぐために、安定していた 2 系の使い勝手を踏襲し、現行バージョンに適応する形で構築されてきた。しかし、新しいバージョンの 4 系が持つ多くの新機能を最大限に活用し、利用者にとっての利点を最大化するために、新しい UI へ切り替える必要が生じた。新しい UI では、ドロワーメニュー（通常は小さなアイコンでクリックで広がるメニュー）の採用など大きな変更があり、機能面では小テストやテキストエディタなどに変更がある。これらの変更は、利用者にとってより良い体験を提供することを目的としているが、同時にこれらの変更には綿密な準備と検証が不可欠である。スムーズな移行と導入を実現

するためには、事前の十分なテストと利用者へのサポートも行うこととなる。

2. Moodle のバージョンについて

Moodle はメジャーバージョンのサポートを原則 18 ヶ月と定めている。しかし年度単位で動く大学での運用においては、セキュリティ面でのサポート期間を長く得る必要性から、長期サポート (long-term support = LTS) のバージョンを利用することとなる。現在の LTS バージョンは 4.1 であり 2025 年 12 月まではセキュリティサポートされる。2025 年度には次期 LTS を使うのかを検討する必要がある。Moodle 公式ウェブサイト²⁾ に掲載されている、2023 年 11 月時点で利用できるバージョンと期間を図 1, 2 に示す。Moodle のバージョンアップ

Version	Release status	Initial release date	General support ends	Security support ends
3.9 (LTS)	Current security	15 June 2020	10 May 2021	11 December 2023
3.11	Current security	17 May 2021	14 November 2022	11 December 2023
4.0	Current security	19 April 2022	12 June 2023	11 December 2023
4.1 (LTS)	Current stable	28 November 2022	11 December 2023	8 December 2025
4.2	Current stable	24 April 2023	22 April 2024	7 October 2024
4.3	Current stable	9 October 2023	14 October 2024	14 April 2025
4.4	Future release	22 April 2024	21 April 2025	9 December 2025

図1 Moodle のバージョンとサポート期間 (表)

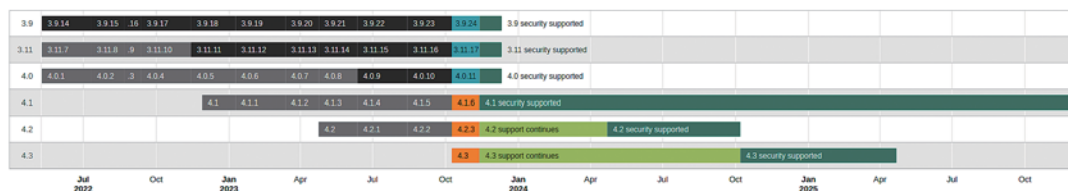


図2 Moodle のバージョンとサポート期間 (グラフ)

プ時には管理者向け機能，教員・学生向け機能での変更が発生することが多く，変更点の確認と検証に時間を費やすこととなる。特に初期設定値の変更や既存機能のリネームなどわかりづらい箇所も多いので注意が必要である。

3. Moodle4 系での変更点と対応

4.1 になり変更，追加となった機能とその対応については以下の通りである。

3-1. 管理者向け機能

- アナリティクス追加
- バッジ追加
- 支払い追加
- フロントページ→サイトホームに名称変更
- モバイルアプリ→拡張機能に移動
- サイト管理プリセット追加

今までも利用していない機能，もしくは稀に利用するものなので特に対応する点はない。

3-2. 教員・学生向け機能

- ダッシュボードの表示が変更されタイムラインとカレンダーが表示
- コースのトピックを折りたたむことが可能に
- サイト右下に「？」のヘルプアイコンが表示
- テキストエディタの TinyMCE でアイコンからメニューに
ダッシュボード機能はタイムラインと履修科目が表示されるように変更された。学生の利用が多い機能であるために周知を徹底する必要がある。また、近い機能でマイコースがあるが、非表示にすることはできず表示させたままとなる。2つの機能で混乱が生じないように説明も行っていく。

コーストピックが折り畳み可能になった。授業が進むにつれてコース下部までスクロールしないと見なかったのが解

消されるのは、教員と学生のメリットが大きい。トピック単位での開閉、コース全体での開閉が可能であるために利用したトピックのみを表示することができる。図3の「すべてを展開」をクリックすることでトピックすべてが開き、トピックの左側にある「>」のクリックでトピック単位での開閉ができる。

また、コース左側にもトピックが表示できるようになり、課題や教材へのアクセスが容易になった。

ヘルプアイコンは Moodle 右下に常に表示され、操作方法などの問い合わせ先へのリンクを表示させることができる。今まではヘルプコースや問い合わせ先を見つけられない教員や学生もいたことから、ヘルプアイコン追加によってスムーズにアクセスできると考えられる。

テキストエディタは図6のように Word に似たメニューが表示されるようになった。アイコンのみでは機能がわかりづらかったものが、メニュー化により

森野テストコース

コース 設定 参加者 評定 レポート さらに▼

> 一般

すべてを展開する

> トピック 1

> トピック 2

> トピック 3

図3 折り畳めるようになったコース



図4 コース左側に表示されるトピック



図5 ヘルプアイコン



図6 メニュー化されたテキストエディタ

直感的に利用できるものとなった。

3-3. 教員・学生向けデザイン変更

- ログイン画面の表示
- ページ上部にナビゲーション設置
- 活動とリソースのアイコン表示

今までのログイン画面は告知やコースカテゴリが表示されており、どこからロ

グインするのかわからないという声もあったため、4.1からは分離することとした。これにより学外から Moodle を閲覧できなくなり安全性も高まっている。

Moodle 上部に頻繁に利用されるページなどのリンクを設置した。HOME・ダッシュボード・マイコース・マニュアル・言語設定・問い合わせである。特にヘルプはいったんトップページに戻る必要が



図7 分離されたログイン画面

あったために、メニュー化することでアクセスがしやすくなる。

活動とリソースのアイコン表示は4.1になって大きく変更されたものの1つである。

図9のように、従来の Moodle ではアイコンが文字とほぼ同じ大きさで小さいものであったものが、大きくなり色も変わっている。昨今デザインの潮流であるミニマル化、フラットデザイン化に

Moodle も対応したものと思われる。活動とリソースの単位で枠がつくようになったために、どこに対しての説明かも分かりやすくなっている。

これら以外にも教員向けの課題や小テストでの機能変更もあるが、アップグレード作業には影響しないために今回は割愛する。



図8 Moodle 上部に設置されたメニュー



図9 アイコン化された活動とリソース

4. アップグレード

4-1.

機能とUIに大きな変更があるため、教員と学生が混乱しないように検証を重ねてアップグレードを進めている。その手順は以下の通りである。

- Moodle サポートスタッフによる検証
- 情報システム課職員と遠隔授業サポートスタッフによる検証
- アップグレード告知準備
- マニュアル変更

先に述べたようにセキュリティ面などからアップグレードは必要であるが、それにより利用者の使い勝手が悪くなってしまうのは本末転倒である。第1段階としてサポートスタッフが検証し変更点などを確認する、第2段階として、教員・学生からの問い合わせ窓口となっている職員と遠隔授業サポートスタッフと共同で本格導入に向けての細部を調整する流れとした。

4-2. Moodle サポートスタッフによる検証

2023年1月より学外のサーバーにMoodle4.1をインストールし、コース移行の可否、管理機能の変更、コース・活動・リソースの変更などを、筆者とサポートスタッフの内田氏とともに検証した。

この段階では移行後の告知やマニュアル作成を見据えて4.1の機能把握に主眼を置いている。2-2-1で述べたように機能面では大きな変更がなく、アップグレードしても教員・学生の利用に支障はないと判断できるものであった。

4-3. 遠隔授業サポートスタッフによる検証

2023年7月より学内のサーバーにテスト環境を構築し、外部からのアクセスをシャットアウトした状態で検証を行った。切り替え時の混乱を防ぐために必要な機能やUIの検証と調整が主な作業である。10月からは情報システム課の水谷係長、遠隔授業サポートスタッフの福岡氏と山本氏にご協力いただいた。上部メニューの項目、活動とリソースのナンバリング、ロゴのサイズなど細かい点のご指摘から修正と検証を繰り返し調整も行った。表1に調整項目の一部を示す。

24年度版Moodleの環境構築は、情報システム課の水谷様のご尽力により、23年度より2か月ほど前倒して進めていただくことになっている。

2024年新Ver 機能追加 依頼・提案・相談項目					
No	対象者	項目	ページ	内容	補足コメント
3	両方	Moodle仕様	TOP, コース共に	上部の常設バーにマニュアル、問い合わせ先の表示	ページの上部の常設バー（「Home」の横並び）に「マニュアル」「お問合せ」があると良いのでは できれば教員は教員マニュアル、学生は学生マニュアルを。
18	学生	Moodle仕様	トップ/画面	ダッシュボードの内容を検討したい。 ダッシュボード内にブロック「コース概要」「直近イベント」を追加してほしい。	現状2023のマイコースをクリックすると、ダッシュボードが参照されている。ダッシュボードの中に「マイコース」（他校では「コース概要」）「直近イベント」を入れ込むことができれば、現行通りの使用感になりそう。（特にスマホで操作する学生の利便性を想定しています） 高知大学Moodle2023年度版・学生用簡易マニュアル参照
22	両方	Moodle仕様	トップ/画面	ログイン時の初期画面のデザインについて	初期画面に、ログイン、パスワード以外にお知らせを掲載する、または画像を挿入するなどは可能でしょうか。

表1 Moodle4.1 導入に際しての調整項目

4-4. アップグレード告知準備とマニュアル作成

アップグレード告知は簡易的なものを2023年12月に作成。UIの変更点がわかるPDFファイルや動画の作成し、2024年2月にも告知行うことを予定している。学生に関しては新学期が始まるタイミングで気づくので、メディアセンターなどをも連携が必要だと思われる。マニュアル作成は2024年2月末までには完了し、3月には講習会を行う予定である。

5. まとめ

- OSSであるMoodleは機能面、セキュリティ面のバージョンアップが頻繁

に行われるため、アップグレード時は入念な検証を行った

- Moodle4.1はUIが大きく変更するために利用者向けのマニュアル整備が必要である
- Moodleサポートスタッフ、遠隔授業サポートスタッフ、情報システム課との協力のもと、検証およびマニュアルの作成を行い、利用者が混乱しないような準備を実施している

Moodle4.1は2025年12月にはサポートが切れ新バージョンの導入となる予定である。その際に今回の知見が活用できると思われるので、今後を見据えたアップグレードの流れを確立していきたい。

謝辞

愛知大学情報システム課水谷伸司氏に

は検証環境の構築にご協力いただきました。心より感謝いたします。遠隔授業サポートの福間美晴氏，山本彩代氏，株式会社コネクティボの内田広幸氏には Moodle の動作検証において，適切な助言と指摘をいただきました。ありがとうございます。

注・文献

- 1) Home | Moodle.org, <https://moodle.org/>
- 2) Releases | Moodle Developer Resources, <https://moodledev.io/general/releases>